

認知症のご本人・家族へのインタビュー動画制作について

1. 動画制作を検討するに至った経緯・目的

仙台市では、認知症のご本人や家族の目線や考え方と、ご本人発信による普及啓発を大切にしており、認知症パートナー講座等を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、ご本人の声による普及啓発が思うように進められずにいる。このような中、認知症未来共創ハブ代表の堀田聡子教授、東北工業大学認知症の人と環境研究所が作成した認知症の人のスマホを使ったまちあるき動画「その優しさは、誰のためなのか」や、認知症当事者ネットワークみやぎ作成「認知症当事者の人権を考える」動画との出会い等をきっかけに、ご本人のメッセージを発信することの重要性と、動画という媒体の伝わりやすさや影響力の大きさをあらためて認識した。このことから、ご本人のメッセージ発信を盛り込んだ動画を制作し、それを活用して普及啓発活動に取り組もうと考え、仙台市やその周辺にお住いのご本人や家族の方に協力いただき、仙台市独自でメッセージ動画を作成し、ご本人や家族のメッセージや思いをより幅広い世代の方々に届け、認知症のことを知ってもらいたいと考えた。

2. コンセプト等

(1) コンセプト

① 認知症の人が、前を向いてその人らしく生きることができると感じられるもの

- ・診断された直後の想いから、どのようにして今に至ったのリアリティな声や体験を聞く。
- ・認知症の人が、生きがいや楽しみを持ち、前向きあるいは自然体で暮らしている姿を知る。

② “認知症の人”ではなく、それぞれの考えを持った“人”であると感じられるもの

- ・複数の方にインタビューし、考えや思いは十人十色であることを伝える。
- ・多様性が感じられるものにする。

(2) 発信方法(案)

- ・『せんだい Tube【仙台市公式動画チャンネル】』で配信。
- ・認知症サポーター養成講座等、各種市民向け講座で活用。